

芦屋市総務部参事(財務担当部長)

# 今道 雄介

## IMAMICHI YUSUKE

平成12年 4月 自治省採用  
大臣官房情報政策室  
平成13年 1月 総務省自治行政局選挙部管理課  
平成13年10月 福島県総務部市町村課  
平成15年 4月 総務省大臣官房秘書課  
平成17年 4月 同 自治税務局市町村税課  
平成17年10月 同 諸税係長  
平成18年 7月 同 大臣官房秘書課秘書第四係長  
平成19年 7月 同 自治財政局財務調査課財政再建係長  
平成21年 4月 同 大臣官房秘書課主査  
平成22年 4月 同 給与第二係長  
平成24年 4月 同 自治税務局市町村税課住民税第一係長  
平成25年 4月 同 企画課企画第一係長  
平成27年 4月 同 自治税務局都道府県税課主幹  
平成29年 4月 同 自治税務局企画課主幹  
平成30年 4月 現 職



## 自分に何ができるのか

### 「今道君、それは違うぞ」

今から21年前の夏、官庁訪問で志望動機を問われ、「国で働けば、大きなことができる」と答えた私に、先輩職員はそう言いました。「どこで働くかは問題じゃない。大切なのは、君が何をやるかだよ」「俺は地方分権を進めるために自治体を応援している。霞が関でそれができるのは俺たちだけなんだ」

茨城県の小さな町で育った私は「地元の町が元気になってくれたらいいな」ぐらいの気持ちで総務省の門を叩いたのですが、こういう気概と誇りを持って日本の地方自治を支える人たちがいることに、新鮮な驚きを覚えました。

今思えばこの先輩職員の言葉が「全国の自治体のために自分に何ができるのか」という明確な問題意識を持って私が地方自治に携わることを志した原点となったように思います。

### 「今道さんは国から来た人だから、そう言うんだよ」

昨年の市議会で、市税の減収要因となっているふるさと納税制度の廃止を国に要望するよう議員から迫られ、「制度自体は有意義ですので、廃止要望は慎重に考えるべきです」と答弁した私は、そう言われたのです。

「芦屋市のために自分に何ができるのか」を真剣に考えてきた私にとって、国と自治体の視点をバランスよく持ち、二つの立場を両立させることの難しさを改めて感じた瞬間でした。「けしからん制度ですので、私も廃止に賛成です」と言うのは簡単ですが、ふるさと納税は地域活性化や災害支援に大きく役立っています。

もしもこの冊子を手に行っている皆さんが私の立場なら、何と答えますか？

私は今、市の財政運営の責任を負っています。難しい判断を求められ、思い悩むことも多いのですが、それと同時に自分の成長を日々実感することができています。

私のような総務省の職員が、それぞれの自治体で全力を尽くし、その経験を国に持ち帰って活かす。これが地方自治を支えるために長年培われてきた総務省の原点だと思うのです。

## Week Schedule

### Monday

市役所の一週間は「庁議」から始まります。市政の重要事項を市長以下の幹部職員で協議します。

### Tuesday

翌日の予算審議に向け、課の職員たちと入念に打合せします。とにかく間違いがあってはいけません。



### Wednesday

委員会での予算審議。ネット配信されているため、正確でわかりやすい答弁が求められます。

### Thursday

市の財政状況を市長にレクチャー。市長が正しい判断を行えるよう、正確な情報をお伝えします。

### Friday

本会議で予算案が無事に可決・成立し、ほっとひと安心。

Private Time

芦屋市は、大阪と神戸の大都市に挟まれた「阪神間」にあり、北は六甲山、南は大阪湾の海に囲まれた自然豊かで美しいまちです。一足伸ばすと京都や、淡路島を抜けて四国にも簡単にアクセスできるんですよ！特に六甲の登山口には家から登山靴のまま行ける距離。同僚や家族と登った秋の六甲は最高でした。



## 人口減少社会の中で

皆さんは「人口減少社会」について考えたことがありますか。日本の人口はこれまで右肩上がりに増え続け、特に明治時代以降100年で約4倍に急増しましたが、2008年をピークに今後は100年間で一気に急降下し、やがて1900年頃の水準に戻ると言われています。千葉県でも東京に近い県北西部以外では少子高齢化により人口減少が進む地域があり、日常の買い物や医療等、生活サービスの維持が困難になるなど様々な影響が生じるおそれがあります。そこで、人口減少の中においても、誰もが安心して暮らし続けられるよう、地域の活性化や持続的な発展を目指し、地方創生の取組を進めています。具体的には、各部局と調整しながら目標を立て、移住・定住の推進や子育てしやすい環境の整備など、県全体で様々な施策に取り組んでいます

## 地方創生で日本を元気に



千葉県政策企画課  
福井 淳子 平成13年入省  
FUKUI JUNKO

## 総務省で働く魅力

私は東京郊外のニュータウンで育ったこともあり、学生の頃、自分の住んでいるまちに対してふるさとという意識が薄く、生まれ育った故郷や赴任した自治体のことを熱く語る総務省職員を羨ましく感じた記憶があります。それが、入省後に岐阜県、千葉県と地方で勤務する機会を得て、各地のイベント、自然、グルメなどに触れるうちに、その県に対して愛着が湧いてきました。同時に仕事上も地域を知ってその特性を踏まえることは重要であると感じるようになりました。現在は、各地域の強みを生かした地方創生の取組により市町村が元気になることで都道府県が活性化し、さらに日本の元気につながる、そんな気がしています。このように国だけでなく、地方での勤務を通じて様々な経験ができることは、総務省の大きな魅力だと思います。

## 日々、緊張感を持って

都心から電車で30分圏内、埼玉県の県央に位置する人口約23万人の都市、これが、私が現在勤務している、上尾市です。上尾市では、財政課長として、市の予算編成をはじめとする財政運営全般、そして、それに付随する議会・記者会見などの対応を担当しています。

総務省では、自分が担当する行政分野の課題について、時間をかけて掘り下げた解決案を作成し、上司に判断を仰ぐといった流れで仕事を進めていましたが、市の財政課長の元には、予算執行を伴うありとあらゆる案件が、毎日のように持ち込まれてきます。迅速、公正かつ柔軟な判断が求められ、そして、その結果は、すぐに市民の声となって、返ってきます。市の健全な財政運営と市民サービスの充実を天秤にかけながら、財政課長の重責を果たそうと、日々、緊張感を持って業務に取り組んでいます。

## 国と地方、両方の立場から

総務省の自治部局の仕事の醍醐味の一つは、国と地方の両方から地方自治にアプローチできることだと思います。私は、入省2年目に大分県に、そして、現在は上尾市に出向していますが、自分が本省で制度設計に携わった政策が、自治体でどのように運用されているか、その「答え合わせ」をしつつ、自己研鑽を重ねています。

また、本省で勤務しているときは、全国の自治体から派遣されてきた職員と、一緒に仕事をすることになります。派遣職員と意見を交わし、地方の様々な“生の声”を聴きながら、一体感を持って業務に取り組むことにより、入省当時の「地方のために」という思いが、さらに強くなっていきます。

国と自治体、どちらで働くか悩んでいる方は、是非一度、総務省の職場を見に来てください!

## 地方の立場に立つ国家公務員として



埼玉県上尾市行政経営部財政課長  
西林 幸泰 平成20年入省  
NISHIBAYASHI KODAI

## 地方勤務で得たもの



滋賀県市町振興課  
石井 照寿 平成28年入省  
ISHII TERUTOSHI

## 総務省を飛び出して

琵琶湖を自転車で一周する「ピワイチ」、湖にある日本唯一の有人島「沖島」、日本最古の寿司と言われる「鮎ずし」…と滋賀県に赴任して初めて知ったことはいくつもあります。もし、自分の出身地で働いていたら知っていて当然だったかもしれません。初めての場所に実際に住んで、体験して、知ることが数多くあります。飛び込んだその土地で、地域に密着した仕事や生活をし、滋賀が第2のふるさとになりました。それも総務省の大きな魅力です。

私は1年目に消防庁の防災を担当する部署、2年目は総務省の個人住民税を担当する部署、そして今の滋賀県と分野の異なる業務を経験してきました。異動の度に全国から総務省に出向されている方々、赴任先の滋賀県の方々など日本全国につながりが広がりました。ぜひ、一度総務省に話を聞きに来てみませんか。

## 自治体へ

## 幅広いフィールドで活躍する職員

## 地方を自ら治めるということ

## 高知県の「1年」をつくる

私は今、高知県庁財政課で、県の予算や財政に携わる仕事をしています。予算編成時には担当部局との話し合いを重ね、高知県にとって本当に必要な事業とは何なのかを考えて、1年間の予算を作成しています。

県の今後の方向性を考える上で、総務省を含めた国の動きの情報収集は必須です。常に霞が関の動向にアンテナを張って、いち早く正確に県財政に反映させることが求められています。その中で、総務省での2年間で得た、予算や交付税など国側から作る地方の財政での経験は大変役立っています。

一方で、「全国」と「高知県」ではすべてが同じとは限りません。人口の多い都市部との違いを認識し、過疎化が進む高知県独自の実情を把握して予算をつくるのは簡単ではありませんが、高知県庁でしかできない、とてもやりがいのある仕事です。

## 国と地方を結び

私は現在、滋賀県庁で県内の市町の地方交付税の算定や市町の財政の健全化指標のとりまとめなど、総務省の業務に県庁職員として携っています。全国には1700を超える市区町村があり、国としてすべての市区町村と直接やりとりすることは難しく、都道府県が市区町村のとりまとめ役や国からの窓口となる必要があります。いかに正確に国の意図や制度の背景を市町に伝えるか、一方で市町の声をいかに国に伝えるか、県として国と市町をつなぐ役割の重要性を日々感じています。また、県では担当業務の分野が広いので、制度を幅広くかつ深く理解する必要があります。

国の制度が地方公共団体ではどのように運用されているのか、実際に経験できる貴重な機会に恵まれました。この経験が今後の財産になると思います。こういった経験ができるのも総務省ならではの。



高知県総務部財政課  
中田 千尋 平成29年入省  
NAKADA CHIHIRO

## すべての「ふるさと」のために

みなさんは「ふるさと」と聞いてどこを思い浮かべますか。生まれたところなのか、長く住んでいたところなのか、人それぞれだと思います。総務省に入ると、多くの「ふるさと」を大事にしている人達との出会いがあります。総務省へ派遣で来ている地方自治体職員や出向先の県庁や市町村職員、そして総務省のすべての先輩方です。

地方赴任中の現在、同期達と2か月に1度それぞれの出向先の県を回る会を開催しています。一人一人が、その県の「プロ」となって自分の赴任地の県を案内しています。自分の県のいいところを伝えたい、よりよくしたいという気持ちはその地に愛着を持って働く中で生まれていくものです。是非一緒に地方に出て、たくさんの「ふるさと」を探してみませんか。そして総務省でそのすべての「ふるさと」のために働いてみませんか。